

令和5年度 小林市立小林小学校 学校関係者評価書

4 段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

学校経営 ビジョン		一人一人の思いを受け止め励ましなが「賞賛・承認」することにより、自分に自信をもち、自ら考え行動できる子どもの育成を図るとともに、 保護者・地域との協働による教育活動を通して活気あふれる学校をめざす 「みんなで考え みんなでつくる みんなの小林小学校」			
項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者のコメント
知育	<p>■ 主体的な学びと確かな学力の定着「学ぶ教師の姿を子供の姿で証明しよう」</p> <p>■ 手段・ゴールイメージ</p> <p>1 個人・グループ研究による授業改善</p> <p>2 「学びたい度」の更なる向上</p> <p>3 個別指導充実のためのICTの有効活用</p> <p>4 地域人材や新聞を活用したキャリア教育の充実</p> <p>5 家庭と連携した正しい鉛筆の持ち方の全校的な指導</p> <p>6 新聞投稿、作品コンクール等への積極的参加</p> <p>7 個に応じた指導と見通しをもった特別活動教育の充実</p>	<p>○ 一人一研究授業の実践を通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に取り組んだ。授業改善のテーマ毎にグループ研究を行い、協働な学びと全体での共有化を図り、授業力向上につながった。</p> <p>○ 全校集会やなかよしアンケートを行う時数不計上の時間の最後の10分間を活用して、全校一斉に取り組む学力向上の時間を設定した。内容は各学年で工夫し、教頭や専科教員も個別指導に入るようにした。</p> <p>○ 「小林小お昼のニュース」のコーナーで毎日、様々な分野のニュースを取り上げたことにより、地域・社会への関心が向上した。</p> <p>○ 児童、教職員ともにICTスキルが身に付き、授業等における日常的な活用が図られ、情報活用能力が向上した。また、不登校児童がタブレットPCを活用し、別室で授業を受けるなど有効活用が図られ、不登校解消につながった。</p> <p>○ 鉛筆の正しい握り方について、継続して指導していく必要がある。</p> <p>○ 地域の人材や教育資源を積極的に活用し、福祉学習、ふるさと学習、キャリア教育等に取り組むことができた。シン・小林小まつりでは、地域の人材を活用し体験活動を行った。</p> <p>○ 短歌、俳句、作文、図画など多様な作品コンクールに積極的に応募して多数の賞を受賞した。</p>	3.0	3.0	<p>○ 全国学力調査の結果を十分に分析して、学力の向上と確かな学力の定着に向けた指導法の改善とともに児童の家庭学習の在り方について助言し学力の向上を図っていただきたい。</p> <p>○ 授業を受ける態度が良くなっているように感じる。それは授業改善をされている結果だと思えます。一人一研究授業等、授業改善の成果が授業力向上につながったことは素晴らしい成果である。</p> <p>○ 「小林小お昼のニュース」で地域の事や社会への関心がもてるコーナーとなっており、向上していると思えます。今後も続けるべきだと思えます。「学びたい度」向上のために様々な取組がなされ、工夫されていることに敬意を表します。</p> <p>○ 「小林小お昼のニュース」は、地域社会への関心をもつことは、小林市を知り、社会全体を知ることができる有効な手段である。故郷小林市に自信をもち、中高、その先へと進んでほしい。</p> <p>○ パソコンやタブレットを活用した学習形態とともに、活字による学び、読むことからの学びも学力の定着には欠かせないと考えますので、児童には利用方法をきちんと指導していただきたい。</p> <p>○ 不登校児童へのタブレットを活用した授業は大いに評価できる。</p> <p>○ 鉛筆の握り方はこれからも指導が必要である。</p> <p>○ 宮日新聞の掲載は全校児童のお手本になっていると思えます。</p> <p>○ 校内の各掲示板には年間を通じて児童たちの作品が整然と掲示され紹介されています。児童たちの自信や誇りになると同時に来訪者たちにもほっこり感を与えているものと考えます。これからも学習・体育・芸能・文化の各分野で児童が自ら考え、表現する力を育てるとともに賞賛する場を数多く設けていただきたい。</p>
徳育	<p>■目標 互いを認めよい行いを実行する力の育成 「『自分のことが好き』と思えるまで子供を支えよう」</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 「称賛と承認」によるポジティブな行動支援の具現化</p> <p>2 「学校に行くのが楽しい」の意識向上</p> <p>3 いじめにつながる行動の早期発見と継続的な対応</p> <p>4 不登校・傾向児童の早期対応と多様な学びの場の工夫</p> <p>5 「自分のことが好き」の意識向上</p> <p>6 地域協働活用の活性化と人間関係づくり</p>	<p>○ スクールワイドPBSの行動目標を設定し、「称賛と承認」による行動支援に取り組んだことで、あいさつや会釈、そうじなどに変容が見られた。</p> <p>○ いじめの未然防止の取組について、保護者と教師の意識に差がある。さらに、人権尊重を基本として、いじめの未然防止、早期発見、対応に取り組んでいく必要がある。</p> <p>○ 西諸みんなで人権を考える取組を学校全体で取り組むとともに家庭とも連携することで、人権意識を高めることができた。また、学習指導等支援教員が6年生の学級活動において人権の大切さについて指導する授業実践を行った。</p> <p>○ 毎月のこすもす委員会で気になる児童の対応を協議し、組織的対応を図ってきた。昨年度と比較していじめの認知件数が減少している。</p> <p>○ 不登校、不登校傾向の児童について、適応指導教室、SSW等と連携しながら対応してきた結果、不登校が解消したり、よい方向に改善が見られたりする児童もいた。また、校内に多様な居場所づくり、学びの場を設定して支援を行った。</p> <p>○ まちづくり協議会と連携した「シン・小林小まつり」を実施し、地域学校協働活動の活性化が図られた。まち協が企画から携わり、当日の運営もスタッフとして参加していただいた。</p>	3.2	3.0	<p>○ 児童が楽しく学校に行けるように先生方が努力されているを感じます。「学校に行くのが楽しい」児童が多いのは評価してよいが、残された児童を引き上げてほしい。</p> <p>○ いじめや不登校問題について、保護者が相談しやすい雰囲気を学校全体に醸成していただきたい。</p> <p>○ いじめについての保護者、教職員の意識の差は気になる。意識の差というよりは実感としての差ではないか。難しい取組ではあるが、誠心誠意取り組むことが大事だと思えます。表に出さない些細な不快感をもつ事例があるのではないか。</p> <p>○ 不登校児童への改善はされておりますが、これからもまだ早期対応が必要である。</p> <p>○ 不登校、不登校傾向の児童の対応は細やかな配慮と工夫がされており、結果子どもが学校に居場所がある安心感をもてることは大切なことだと思う。</p> <p>○ 「シン・小林小まつり」では地域の人材を活用した体験ができていた。学年単位で参加する種目が決まっていた「まつり」の自由度がないように思えた。</p> <p>○ 地域の多様な人材、教育資源、関係機関と連携した行事が進められてきました。地域がつくる学校、地域をつくる学校という視点から学校、PTA、地域が共同歩調で行事に取り組むとともに、学校運営協議会が三者の情報交流の要になれると良いと考えます。</p>

項目	本年度の重点目標と 目標達成のための手段	結果の考察・分析及び改善策等	自己 評価	関係者 評価	学校関係者のコメント
体育	<p>■目標 体力向上と安全・健康への意識向上 「健康のための習慣づくりをみんなで実践しよう」</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 多様な運動遊びを取り入れた活動の工夫</p> <p>2 小中の連携によるむし歯治療率の向上</p> <p>3 落ち着きと規律ある集団行動の再指導</p> <p>4 学習・生活指導における「立腰」の徹底</p> <p>5 健康生活への機運を高める取組と一人一人に応じた指導</p>	<p>○ 本年度は体力テストを全校縦割り班で編成して実施した。測定にやや難があり、正確な数値が反映されていない可能性がある。来年度に向けて改善する。</p> <p>○ 小中連携の取組として、むし歯治療率向上に取り組んだ。今後も家庭と連携しながら、むし歯治療率向上への取組を継続していく必要がある。</p> <p>○ 本年度は、毎月、全校集会を実施し、継続して指導してきた結果、落ち着いて話を聞く態度が身に付き、規律ある集団行動が定着してきた。</p> <p>○ 立腰指導は授業開始、終了時など全校統一した取組を継続した結果、成果が表れつつある。</p> <p>○ 昨年度に引き続いて、12月に学校保健委員会として、学校薬剤師、歯科衛生士、保健センター、給食センター等と連携して、体験型の健康ブースを設置して「こば小健康フェア」を実施した。親子で97名の参加者があり、健康生活について意識を高めることができた。本校の恒例行事として定着させたい。</p>	3.0	2.8	<p>○ 運動会では全校児童が一生懸命取り組む姿が見られた。指導者の工夫もいろいろなど見受けられた。</p> <p>○ コロナ禍以前の学校生活が少しずつ戻り始め、様々な活動が再開した今年度、児童の体力向上もA判定が増加し、D判定が減少するように取り組んでいただきたい。</p> <p>○ 体力は全体的に低下していると思われるので、外遊びの工夫がされているが、来年度の改善が必要。1年を通じて、毎月テーマを設けて積極的に運動に取り組んではどうでしょうか。</p> <p>○ 体力向上は目標値とまだ大きな差がある。さらなる努力を図ってほしい。</p> <p>○ 立腰指導の成果は素晴らしい。</p> <p>○ 「こば小健康フェア」が定着することは、健康に対する認識が深まる。</p> <p>○ 「こば小健康フェア」親子での体験学習はいい企画です。今後も継続をしてほしい。</p> <p>○ むし歯治療率が昨年度より低下していることが気になります。家庭との連携、子供たちへの働きかけも大事だと思う。</p>
食育	<p>■目標 望ましい食習慣と食への感謝の心の育成 『食』と自分の成長・健康に目を向けさせよう」</p> <p>■手段・ゴールイメージ</p> <p>1 弁当の日を活用した食への関心を高める指導の工夫</p> <p>2 食と地域産業に関わる地域人材の活用</p> <p>3 適切な量を食べきる習慣</p> <p>4 食物アレルギー児童に係る事故ゼロの取組</p>	<p>○ 弁当の日の取組は、保護者の関心が高く、評価の数値も高かった。家庭との連携を図り、本年度はタブレットにワークシートを配布し、タブレットでもまとめることができるように工夫した。</p> <p>○ 食育掲示板を工夫するとともに、給食センターで給食を調理する様子や農産物の生産者へのインタビュービデオを上映したりしたことで、地産地消への関心が高まった。また、給食の残菜率も下がってきた。</p> <p>○ 栄養職員が、給食時間にはしの持ち方指導を行ったり、学級活動で授業に入ったりすることで、食育の充実が図られた。</p> <p>○ 食に関して、家庭との連携をさらに図り、地域も巻き込んだ食育活動、イベントなどを考えていきたい。</p>	3.2	3.2	<p>○ 「弁当の日」の取組は楽しく工夫しながら作ることで「食」に対する関心がもてる。</p> <p>○ 「弁当の日」は親子ともに関心があるようです。食に関しては家庭と連携しないと児童に伝わらない。</p> <p>○ 給食センターの様子や生産者へのインタビュービデオを上映され、関心が高まったとのことでよい取組だと思います。来年度は、実際に現場に足を運ぶのはどうでしょうか。</p> <p>○ 食への関心、育成のために、様々な取組をされ、その成果が表れていて喜ばしい。今後も更に継続してください。</p> <p>○ 給食を残す児童が減少していることは、工夫された給食になっているからでしょう。</p> <p>○ アレルギー等のある児童への対応も大事である。家庭との連携も必要である。</p>
次年度の方向性についての 校長所見	全体	「コロナ明け」の本年度の教育活動は、これまで実施できなかった学習活動や学校行事を少しずつ取り戻していった。児童の主體的な活動を全職員が意識しながら計画・実施したことで、「学校が楽しい」と素直に感じている児童が増えてきている。これは、「シン・小林小まつり」に象徴されるように、保護者、地域が学校と一体となって取り組み、「みんなの学校」の実現を図った結果であると考えられる。一つ一つの取組にはまだ課題も見られるが、その課題もみんなで共有しながら、より良い方向性を見出していきたい。			
	知育	学力に関しては、委員のご指摘もあるように、学校での授業改善はもちろん、「子どもの学ぶ姿勢」「家庭の学ぶ環境」も影響していると考えられる。「学校の授業を」「家庭の環境を」と他者に問題を押し付けることなく「どうしたら子どもが進んで学ぶようになるか。」をみんなの課題として議論することが必要である。授業や家庭学習の方法・内容からの一方向からの見直しではなく、学校が楽しく、授業が楽しく、学ぶことが楽しくなるための「子どもの意識」に立った取組を計画したい。			
	徳育	スクールワイドPBSの取組は、方向性としては間違っていないが、十分な検証が行われていないことが最大の課題である。子どもを育てるには「ほめることばかりでは大切なことが身に付かない。」という意識があることも確かである。「何を考えさせ、何をしつけるのか。」率直に議論していきたい。学校に足が向かない子どもたちへの取組は、スクールソーシャルワーカーをはじめ、関係期間のお力も借りながら、良い方向に向かう子どもが見られる。しかし同時に、新たに登校できなくなる子どもも見られる。粘り強い取り組みをこれからも続けていきたい。			
	体育・食育	コロナの影響を受けた子どもたちの体力の低下が課題となっているが、本年度だけで取り戻すことは困難である。比較的外遊びの好きな子どもが多いことから、遊びながら体力が高まる工夫を今後も続けていきたい。「食」に関しては、今年も新たな取組が見られた。「弁当の日」は、その意義を理解している職員や保護者が少なくなる傾向もあるので、再度、認識を高める活動を今後計画したい。歯の治療率の向上が課題である。啓発だけでは浸透しないことを感じている。運動課題や健康への意識向上については、委員からも提案のあった「テーマを決めて取り組む」という方法を取り入れ、保護者の機運も高めるよう工夫したい。			